□■　第４章　基本計画

基本目標１
男女共同参画・ダイバーシティ社会の実現を目指した意識づくり

重点目標１　男女共同参画に関する正しい理解と意識改革

施策の方向
１　男女共同参画の理解を深めるための広報・啓発の推進
２　男女共同参画の視点に立った意識改革・慣行の見直し
３　メディアにおける男女の人権の尊重
４　男女共同参画に関する調査・研究・情報収集・提供

重点目標２　男女共同参画社会の実現に向けた人づくり

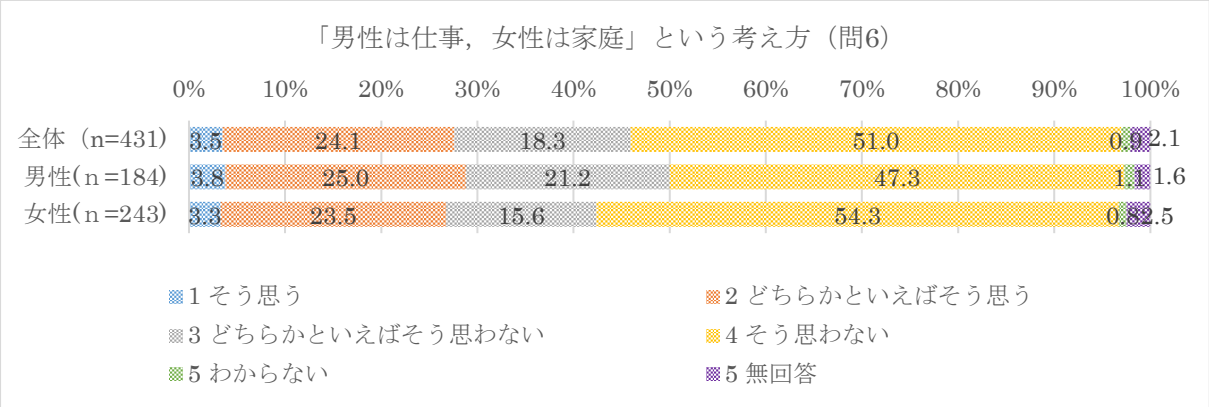
施策の方向
１　家庭や地域における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実
２　学校における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

重点目標１　男女共同参画に関する正しい理解と意識改革

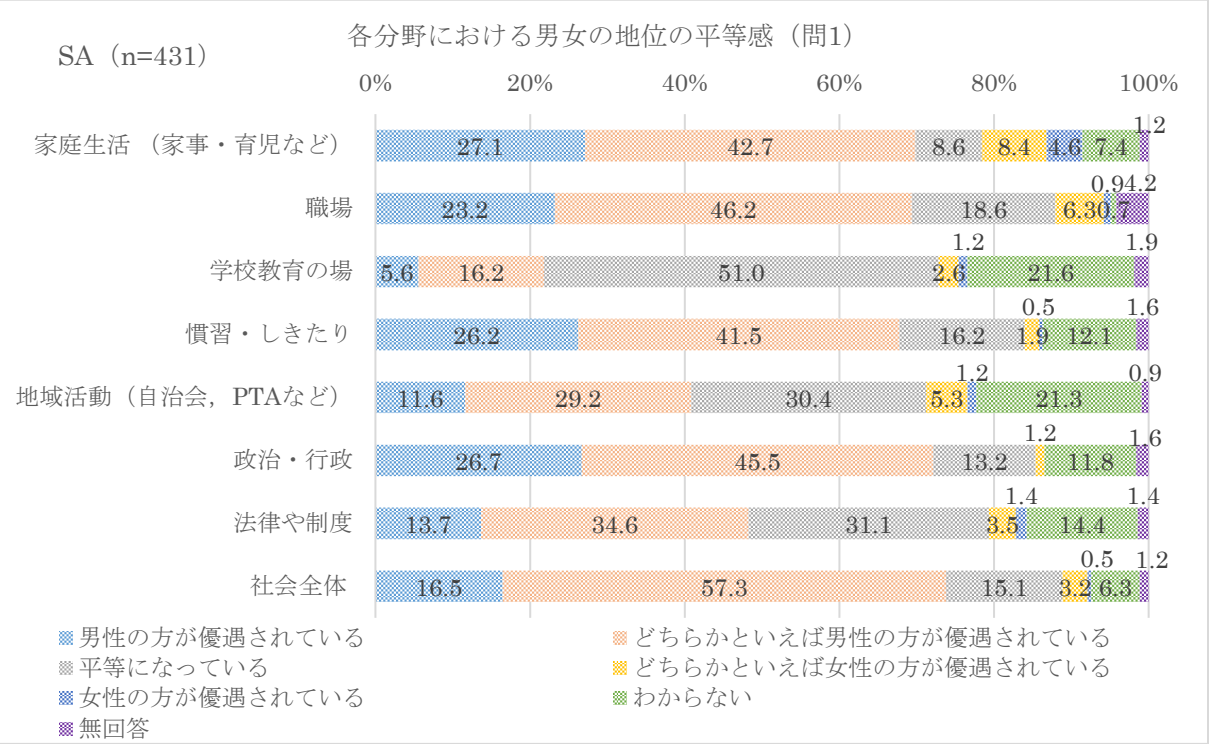
◆　現状と課題　◆◇◆

令和２年市民意識調査において，「男性は仕事，女性は家庭」という考え方について，「そう思う（「どちらかといえばそう思う」を含む）」と答えた方は，男性がわずかに上回っていますがおよそ ３ 割で，「そう思わない（「どちらかといえばそう思わない」を含む）」と答えた方はおよそ７割でした。一方で，各分野における男女の地位の平等感については，「家庭生活」，「職場」「慣習・しきたり」「政治・行政」の分野で「男性が優遇されている（※「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含む）」と答えた方が７割を超え，依然として不平等感が解消されていません。

意識としては，これまでの男性，女性の固定的な役割にとらわれることはないという考えが浸透してきているものの，家庭や職場，社会などにおいては，慣行や慣習，固定観念，あるいは置かれている環境などにより行動を変えていくことが難しく，依然として男女の不平等感が強く残っていることがわかります。

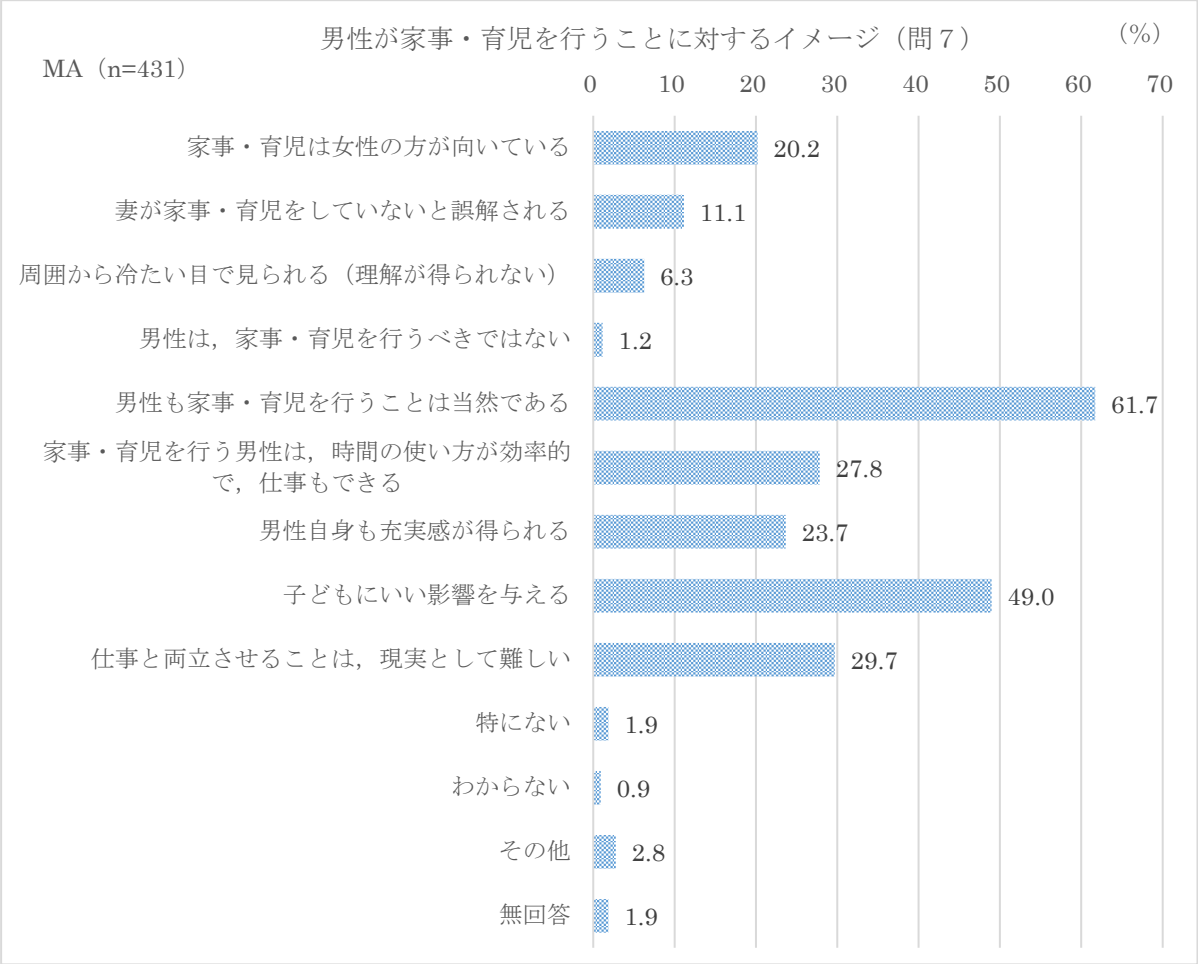


【令和２年市民意識調査】



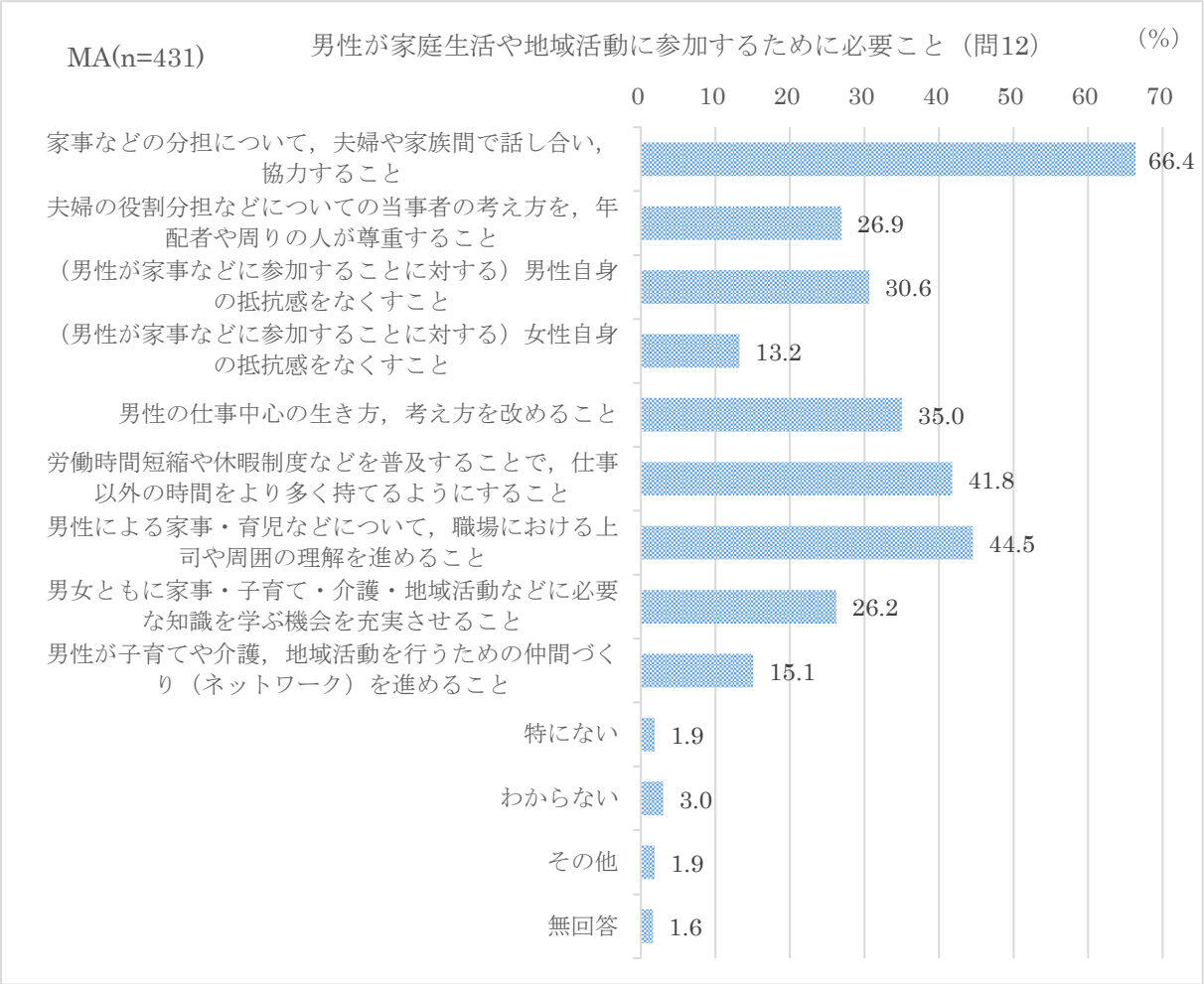
【令和２年市民意識調査】

「男性が家事・育児を行うことに対するイメージ」については，「男性も家事・育児を行うことは当然である」が最も高くおよそ６割，「子どもにいい影響を与える」がおよそ５割，「仕事と両立させることは，現実として難しい」がおよそ３割でした。特に女性は，「子どもにいい影響を与える」と考えている割合が男性よりもおよそ２割高く，「家事・育児は女性の方が向いている」については年代が上がるにつれて，「仕事と両立させることは，現実として難しい」については 30 代後半～50 代の現役世代で，高い傾向となっています。



【令和２年市民意識調査】

「男性が家庭生活（家事，育児，介護等）や地域活動に参加するために必要なこと」については，「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力すること」がおよそ６割で最も高く，次いで「男性による家事・育児などについて，職場における上司や周囲の理解を進めること」，「労働時間短縮や休暇制度などを普及することで，仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」がおよそ４割，「男性の仕事中心の生き方，考え方を改めること」がおよそ３割でした。



【令和 2 年市民意識調査】

男性は，固定的な性別役割分担意識や長時間労働などにより仕事中心の生き方となる方が多く，夫婦や家族で過ごす時間が少なかったり，地域社会との関わりを持つ機会が少ないことから，いざ仕事から離れたときに，孤立しがちになることが多いといわれています。一方で，社会変化等により，「家事は気づいた方がやればよい」と考える人も増えてきていますが，根本的な意識は，男女ともに大きく変化していません。

また，男性が家庭生活においていざ行動に移そうとしたときには，周囲の理解が得られなかったり，家庭内においても「見えない家事」の存在や育児負担などの男女の認識の違いが，女性の不満やストレスにつながっているということもいわれています。家事・育児の分担は，互いに当事者意識をもつこと，見えない家事も含めて家庭内で確認し合い，役割分担を見直す機会をつくることが必要です。

男女共同参画の推進は，女性だけや子育て世帯だけなど，特定の人を優遇しようとするものではありません。また，固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定観念，アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）は，幼少の頃から長年にわたり形成され，女性にも男性にも存在していることから，どちらか一方の意識を変えていけばよいということでもありません。世代によっても，固定的な性別役割分担意識の中で生活してきた年配の世代と男女平等に対する教育が取り入れられてきた若い世代とでは，意識や課題に違いがありますし，同性の間においてでさえも，その置かれ

ている環境によって異なっています。人の中に形成された意識や無意識の行動は，それまでの経験や育った環境，受けた教育に深く根ざしているため，すぐに変えていくことは容易ではありません。

男女共同参画を推進する上では，自分には関係ないという人を作らないことが大切です。誰もが自分事として関心を持ち協力して取り組めるよう，男女双方の意識改革に取り組むとともに，性別や世代によって異なる意識や課題に対し，訴えかける対象を設定し，効果的に啓発活動を図っていくことも必要です。

さらに進めて，年齢，障がいの有無，国籍・文化的背景の違いや性別，性自認や性的指向の違いなど，あらゆる「違い」を認め合い，お互いの人権を尊重し，多様な人々の能力や考え方を受け入れ，積極的に生かしていく「ダイバーシティ（多様性）社会」の視点をまちづくりに取り入れ，様々な社会変化に柔軟に対応できる豊かでしなやかなまちづくりが重要です。

■□■　目　標　■□■

男女共同参画社会を正しく理解し，一人一人が自分自身のこととして関心を持ち，多様性を認め尊重しあえる社会，誰もが自分らしく生きられる社会を目指します。

施策の方向１　男女共同参画の理解を深めるための広報・啓発の推進

男女共同参画について，誰もが身近な問題として意識を高め，また，その意義があらゆる世代に正しく理解されるよう，わかりやすい言葉を用い，広く普及・啓発活動を推進します。

【具体的な施策】

■男女共同参画の推進に関する各種イベントや講座など，啓発事業の実施

■男女共同参画情報紙「ウィング」の発行

■男女共同参画に関する市ホームページの充実

■市広報紙，FM かしま，インターネット，イベント時における展示など，様々な媒体や機会を活用した普及・啓発活動の実施

施策の方向２　男女共同参画の視点に立った意識改革・慣行の見直し

男女共同参画の視点に立ち，あらゆる分野において根強く残っている男性優遇の社会通念や慣行等を見直すとともに，すべての人が心豊かに暮らしていける社会を目指し，性別や世代，あるいはその置かれている環境によって異なる様々な課題を調査・研究し，それらの解消に向け，事業者や教育機関，市民活動団体等と連携し，対象に応じた効果的な啓発活動を展開し，それぞれにとっての男女共同参画を推進する意義についての理解促進を図ります。

【具体的な施策】

■世代や性別など異なる課題についての情報収集・調査，対象別啓発事業の実施

■若い世代に向けたライフキャリアデザインに関する情報・学習機会の提供

■男性の家事や育児への参画を推進するための各種講座の開催

■（家事や育児，介護，地域活動に参加する男女双方にとっての）ロールモデル＊の情報収集と提供

＊ロールモデル…具体的な行動や考え方の模範となる人物のこと。

施策の方向３　メディアにおける男女の人権の尊重

様々なメディアから発信される情報は，一人一人の人生観や価値観などに影響を与えます。また，日常的に見聞きする表現が無意識のうちに人々の意識形成に影響を及ぼしています。そのため，そうした影響を，情報を発信する側が自覚し，性別によって偏った表現や固定的な男女の役割をイメージさせる表現となっていないかなど，人権を尊重し，男女共同参画の視点に立った表現となるよう配慮する必要があります。

とりわけ，行政が作成する広報紙やホームページ，掲示物等は，公共性が高いため，男女共同参画の視点に立った表現となるよう意識し，点検していくことは当然のことですが，表現の自由を尊重した上で，団体や学校，事業所など，あらゆる主体が発行する刊行物等についても，そうした取り組みが継続・拡大するよう働きかけを行います。

一方で，市民一人一人が，メディアからもたらされる情報をそのまま受け止めるのではなく，主体的に読み解き，情報を活用し，自己発信する能力を育成していくことも必要です。

【具体的な施策】

■広報紙等，市が発信する文書等における男女共同参画の視点に立った表現の促進

■あらゆる主体が情報を発信する際における，男女共同参画の視点に立った表現の自主的な取り組みを促進するための情報提供と働きかけ

■学校等におけるメディア・リテラシー＊向上のための情報教育の推進

＊メディア・リテラシー…メディアを主体的に読み解く能力，メディアにアクセスし活用する能力，メディアを通じコミュニケーションする能力を構成要素とする複合的な能力のこと。

施策の方向４　男女共同参画に関する調査・研究・情報収集・提供

男女共同参画・ダイバーシティ社会の実現に向けて，それらに関するデータや資料等の情報収集をするとともに，わかりやすく興味を持ってもらえるように情報提供をします。また，実現性の高い事業を行っていくため，男女共同参画・ダイバーシティに関する現状を把握できるよう随時調査を行い，施策に反映します。

【具体的な施策】

■男女共同参画に関するデータや資料の収集及び情報の提供

■男女共同参画に関する調査の実施（市民意識調査・講座等開催時のアンケート調査等）

重点目標２　男女共同参画社会の実現に向けた人づくり

◆◇◆　現状と課題　◆◇◆

人は，家庭・学校・地域・職場などあらゆる場面において，様々な人と関わり，多くの影響を受け，気づきや学びを繰り返しています。なかでも，人の意識は，乳幼児期からの関わりの中で育まれていくものであり，男女共同参画社会の実現のためには，家庭はもちろんのこと，子どもの成長を取り巻く地域社会すべての人が男女共同参画の視点を持ち，行動していることが必要です。

特に子どもにとっての家庭は，最も身近なロールモデルになります。しかしながら，令和 2 年市民意識調査の結果では，「家庭生活」において「平等」と思う割合は，男性 12.5%，女性 5.8%と低く，「男性の方が優遇されている」と思う割合は，男性 62.5%，女性 75.0%と高くなっていると同時に男女の差も見られ，固定的な性別役割分担意識などを根底に不平等感が根強く存在しています。このため，家庭内において，固定的な性別役割分担意識を受け継ぐことがないよう，保護者をはじめとする周囲の大人の男女共同参画意識の向上を図り，男女が，家事や育児・介護，働くことなど，ともに責任を分かち合い，協力し合うことの大切さを子どもたちに伝え，行動で見せていくことが必要です。また，固定観念などによって，無意識のうちに子どもたちの将来や可能性を狭めることがないよう意識することも必要です。

学校教育においては，教育活動全体を通じて，児童生徒の発達段階に応じ，男女の参画の平等や人権の尊重など，男女共同参画の視点に立った教育の充実を図るとともに，夢を持ち，性別によって個人の可能性を制限されることなく，主体的に自分らしい生き方が選択できる力を身に付けることができるよう，総合的なキャリア教育を推進しています。

しかしながら市民意識調査の結果では，「学校教育の場」では，男女平等が最も進んでいるという結果でしたが，「地域社会」や「働く場」では男女の不平等感が強い状況で，多くの女性が就職など学校を卒業後に不平等な現実に直面しています。

人づくり，次世代を担う鹿嶋っ子の育ちを考えるときには，仕事をはじめ，家庭生活や地域社会との関わり，個人の活動（自己啓発や趣味など）など，生涯にわたって自分らしい生き方，豊かな人生をデザインする力を持つことができるよう「ライフキャリア教育」の視点が必要です。そして，そのすべてを学校教育の中で教員が指導することは困難です。そのため，学校教育においては，大学や企業等事業所，関係機関をはじめ，社会人・職業人としての知識や経験豊富な地域人材など，多様な主体と連携し，子どもたちが進路選択や職業選択などにおいて，将来のイメージができるような取り組みの充実を図るとともに，家庭や地域コミュニティにおいては，家庭での役割を果たしながら，仕事に趣味に自己実現に，充実した生き方を重ねる「かっこいいオトナ」の存在を見せていくこと，そうしたオトナとの関わりを

持つ機会をつくっていくことも大切です。

さらに，人生 100 年時代が到来する中で，「教育，仕事，老後」という単線型の人生設計ではなく，若いときから人生のどの段階においても，それぞれの働き方，学び方，生き方が選択できるよう意識の醸成を図るとともに，自分らしく生き生きと生きていくための力を身に付けることができる学びの充実を図っていくことが必要です。

■□■　目　標　■□■

男女共同参画の意識を育むため，将来に向かって自立し，個人の能力や個性を活かし，自分らしい生き方が選択できる力が身につくよう，家庭・地域・学校など，あらゆる場面における教育や学習の充実を図ります。

施策の方向１　家庭や地域における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

子どもの手本となる家庭や身近な地域社会の中に根強く残っている固定的な性別役割分担意識などのジェンダー・バイアスを解消し，誰もが人権を尊重し，男女共同参画を正しく理解し，行動することができるよう，学習の機会や情報を提供します。

また，子どもたちの未来のために，ジェンダー視点を踏まえ，子どもたちが家庭や地域において，様々な経験や役割を通じて，しなやかで自分らしく生きていく力を身につけることができるよう，家庭や地域における男女共同参画の普及啓発を図るとともに，子どもと大人がともに学び活動する機会の充実を図ります。

【具体的な施策】

■男女共同参画についての学習機会・情報の提供

■家庭や地域における教育力を養うための学習機会・情報の提供

■子どものエンパワーメント向上のための支援

施策の方向２　学校における男女共同参画の視点に立った教育・学習の充実

学校教育において，子どもを指導する立場にある教育に携わる者が男女共同参画の理念を正しく理解した上で指導にあたるよう，意識啓発や研修の機会の確保等に努めるとともに，児童生徒に対し，人権の尊重，男女の平等，相互理解・協力など，男女共同参画の理解促進を図るための教育・学習の一層の充実を図ります。

また，将来に向けて，自己肯定感を高め，自立の意識を育み，一人一人の個性や能力を尊重し，児童生徒が主体的に学び，考え，行動する姿勢を育むなど，自らの生き方を自らの力で選択することができるよう，学校内外におけるライフキャリア教育を推進します。

【具体的な施策】

■教職員等に対する人権尊重や男女共同参画に関する研修等の取り組みの推進

■児童生徒の発達段階に応じた男女共同参画の視点に立った道徳教育・学習の充実

■児童生徒の発達段階に応じた職場体験活動の実施

■多様性を認める意識の醸成

≪指標項目≫

1.「男性は仕事，女性は家庭」といった考え方について，「そう思わない」と回答する人の割合

現状		5 年後
69.3%	→	80.0%

2. 社会全体で「男女の地位は平等」と感じる人の割合

現状		5 年後
15.1%	→	30.0%